

バイオマス取組事例概要

《農林水産省農村振興局長賞》

- ・ 応募主体 能代森林資源利用協同組合
- ・ 都道府県・市町村 秋田県能代市
- ・ 取組分野 木質直接燃焼

取組概要

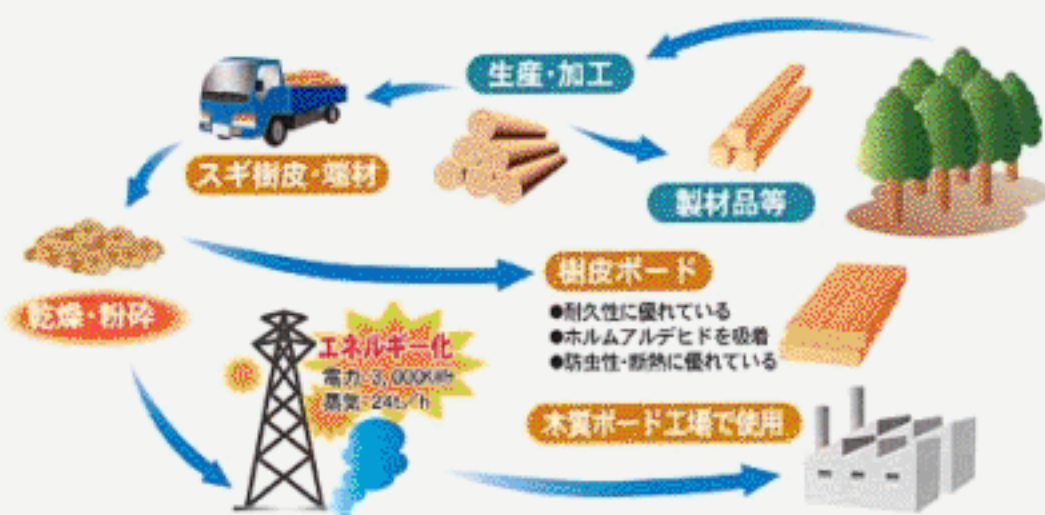
能代森林資源利用協同組合員の製材工場から排出される樹皮や端材を燃焼し、電力及び蒸気を利活用。RPS法認定済み。

能代地域(米代川流域)は、製材、集成材、ボード工場など秋田県内の木材木製品関連企業が多く所在(県内企業の3分の2)し、ここで発生する残材の処理について、適切な焼却炉がないため産業廃棄物処理(1万円・t/年)を行なわなければならないという問題を抱えていた。

このため、発生する樹皮・端材等の有効利用方策を検討し、地域内の森林組合や製材業者等で組織する「能代森林資源利用協同組合」を設立して、経済的にも成立するバイオマス発電ボイラーの燃料として利用する計画を策定し、3,000kw級の木質バイオマス発電施設を整備、平成15年2月から稼働を始めている。

この施設は、組合員の製材工場から排出される樹皮や端材(1,500円/tの賦課金で引き取り)をボイラーで燃焼し、発生する蒸気で発電機を回転させ、生産された熱と電気を隣接するボード工場に供給するとともに、電気会社に売電している。

製材工場として、残材を低コストで処理・活用することができるとともに、地域全体として、木質バイオマス資源の有効活用が図られている。



地域の企業が協同組合方式で取り組むのは全国で始めてである。

施設全景

施設規模 3,000kw
使用原料 40,000t/年